

## 第1回改訂：更新内容[1]～[22]について

### 1. はじめに

令和5年10月に愛知教育大学「明倫堂文庫」ホームページを開設し、情報提供をお願いしたところ、貴重な情報をお寄せいただいた。令和6年10月までに得られた情報などをもとに、令和7年2月に第1回改訂を行い、解説とともに新たな仮説を記す。

なお、文中の〈本論〉は〈尾張藩「明倫堂」蔵書と愛知教育大学「明倫堂文庫」〉を指す。

ご教示いただいた皆さまに、厚く御礼申し上げます。

### 2. 更新情報の概要

#### 2-1. 愛知県図書館

同館の成田克己氏に明倫堂関係の蔵書があるをご教示いただき、表Ⅰ・Ⅱの所在不明図書の可能性のある図書を閲覧し、下記「3. 個別の更新内容」の[1～7] [10]を見出した。受入印、ラベルから、昭和33年7月に県文書課より愛知県図書館へ移管された図書の中に江戸期の和装本があり、明倫堂旧蔵書もそこに含まれていたと推定される。

〈本論 13, 14 頁〉2. (3)において、『群書類従』が愛知県図書館および一宮市立中央図書館に所蔵されていることを記した。これを含め、計9点が確認されたことになる。これらが県文書課に保管された経緯を探る鍵は3つある。

##### 〈鍵1〉

[6] 後漢書(筥名：體) 60冊の後半30冊は本学、前半30冊は愛知県図書館所蔵。

[7] 後漢書(筥名：盛) 60冊の前半30冊は本学、後半30冊は愛知県図書館所蔵。

[10] 湖月抄(筥名：國) 本学蔵書は、「明倫堂書庫記」印59冊(桐壺1冊欠)と「尾藩寺社官府蔵書」印2冊(雲隠説、桐壺各1冊)の計61冊。愛知県図書館蔵書は、「明倫堂書庫記」印の桐壺1冊と「尾藩寺社官府蔵書」印の58冊(雲隠説1冊欠)。

いずれも、同じ場所に保管されていた2部(以上)の図書が、筥名や蔵書印を顧慮することなく、適宜分割された結果と考えるのが自然である。

ただし、本学蔵「尾藩寺社官府蔵書」印「雲隠説」の表紙には、明倫堂の蔵書管理に用いられた筥名「國」が記されており(〈本論〉参照)、尾張藩に蔵されていた2部各60冊の『湖月抄』が両機関に分置される過程で生じた単純な過誤とは決しがたく、この点はなお検討を要する。

##### 〈鍵2〉

[1] [2] [4] の図書に押されている朱印「明治十九年／八月點査章」は、本学蔵書には見あたらず、愛知県側の検印と考えられる( [4] には「愛知県／第五課／図書印」もある)。この時点(明治19年8月は「愛知県尋常師範学校」設立の年月)で、師範学校蔵書とは別に県が保管していた旧藩蔵書があることになる。

##### 〈鍵3〉

『群書類従』には「愛知県第／一師範学／校図書印」(使用期間は明治32年から昭和18年か。[1

～7] [10] には、この印を含め、本学前身校の蔵書印は無い) があり、これとは別の経緯が考えられる。すなわち、昭和 18 年(1943)4 月に、官立(国立)の「愛知第一師範学校」が成り、県立からの移管に際して、蔵書の一部が愛知県に残された。

したがって、〈本論〉「4. 藩校旧蔵書のゆくえ」に記したような経緯の他に、一部がはじめから愛知県に分置され、その後『群書類従』のように愛知県に残されることになった図書もあったと考える。以上が現時点での仮説である。

## 2-2. その他

松本文子氏からご教示いただき、[9] [11～15] を確認した。

[9] は国立国会図書館デジタルコレクション、[11] は国書データベースの画像により、それぞれ筧名・蔵書印を確認。[15] 岩瀬文庫蔵本は図書閲覧。[12] は BULAC の目録により筧名・蔵書印を確認。[13～15] は、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルクの蔵書検索では所蔵を確認できなかったが、国書データベースおよび「欧州所在日本古書総合目録 コーニツキー版」の記載に従った(筧名は未確認)。

〈本論 31 頁〉4 の 4 (2)(b)に、東京書籍館移籍後、「独乙国ハルレ大学」との交換にあてられた可能性のある尾張藩明倫堂旧蔵書を挙げている。Halle を「ハルレ」と表記したものと思われるが、ハレ大学付属図書館本 3 点のうち「をしまのとまや 2 冊」「玉くしげ 1 冊」はその想定を裏づけるものである。

## 3. 個別の更新内容

### 3-1. [1] ～ [15]

[1] 康熙字典(筧名：墨) 愛知県図書館(請求記号 BW/823/ㄅ-1/1 等)において 41 冊所在が判明した。

[2] 康熙字典 愛知県図書館(請求記号 BW/823/ㄅ-1/1 7 等)において 39 冊所在が判明したが、ラベル貼付のため筧名は不明。

[3] 玉篇〔BC：頭書玉篇〕(筧名：女) 愛知県図書館(請求記号 BW/823/ㄆ-1-1 等)において 1 部 12 冊所在が判明した。筧名「女」の斜め上に添え字(本論 2. (3)参照)の「乙」字が記されている。

[4] 史記(筧名：己) 愛知県図書館(請求記号 BW/222/ㄆ 2/10-1 等)において 24 冊所在が判明した。ラベル貼付のため筧名は不明だが、第 1 冊表紙に「ほ下己/二十五冊」と表記があり、底本(明倫堂蔵書目)記載の部「ホ下」とも一致することから筧名「己」の史記と判断した。

[5] 前漢書〔BC：漢書評林〕(筧名：當) 愛知県図書館(請求記号 BW/222/ㄇ/1-1 等)において 50 冊所在が判明した。

なお、取調簿に「漢書評林前篇 内五十ノ巻缺」とある図書を、筧名「當」の図書に比定していたが、愛知県図書館蔵本は巻 50 を含む完本である。したがって、取調簿記載図書の比定を改めた。

[6] 後漢書(筥名：體) 60冊のうち後半30冊は本学所蔵、欠本となっていた前半30冊は愛知県図書館(請求記号 BW/222/ㄱ 2/1 等)において所在が判明した。

[7] 後漢書(筥名：盛) 60冊のうち前半30冊は本学所蔵、欠本となっていた後半30冊は愛知県図書館(請求記号 BW/222/ㄱ 2/31 等)において所在が判明した。

[8] 元文類(筥名：馨) 岡山大学附属図書館(請求記号 2門/1492)において20冊の所在が判明した。CiNiiには「明□堂図書」とあったが、所蔵先に照会し、筥名・蔵書印を確認した。

[9] 河間府志(筥名：壺) 国立国会図書館(請求記号 WA35-72)において14冊(合7冊)の所在が判明した。東京書籍館移籍本のリスト[西村・佐野1973]には不記載。

[10] 湖月抄(筥名：國) 愛知県図書館(請求記号 BW/913.36/ㄱ 2/1-1)において「桐壺」の所在が判明したが、ラベル貼付のため筥名は不明。

〈本論〉「5の1. A2 注2」に記したように、本学の『湖月抄』(和1398)は、「明倫堂書庫記」印の蔵書59冊(雲隱説1冊含む。桐壺1冊は欠)、「尾藩寺社官府蔵書」印蔵書2冊(雲隱説、桐壺各1冊)の計61冊である。

今回、愛知県図書館に、「明倫堂書庫記」印を押す桐壺1冊を含む『湖月抄』59冊(他の58冊は「尾藩寺社官府蔵書」印。雲隱説1冊欠)があり、本学蔵書と互いに欠を補うことが判明した。

[11] 星渚対問(筥名：詠) 5部各1冊の内、東北大学附属図書館(請求記号 2/2539/1)において1冊所在が判明したので、あらたに行を加え、不明部数を3部に改めた。

[12] 江家次第(筥名：初) 国書データベースより、パリ東洋語図書館(現 BULAC)の目録において19冊所在と筥名が判明した(請求記号 JAPAF.601)。

本書は東京書籍館移籍本のリストに記載が無く、パリ東洋語図書館収蔵の経緯は不明である。

[13] 玉櫛笥(→玉くしげ)(筥名：卑) 国書データベースの書誌情報より番号欄をハレ大学に、印欄を明記に改訂した。

[14] 通俗両国志(筥名：則) 国書データベースの書誌情報より番号欄の該当書×をハレ大学、印欄を明記に改訂した。

[15] をしまのとま屋(筥名：卑) 「欧州所在日本古書総合目録 コーニツキー版」(国文学研究資料館学術情報リポジトリ)により、番号欄の該当書×をハレ大学、印欄を明図に改訂した。

また、西尾市岩瀬文庫(をしまのとまや。資料番号 109-21)において1部2冊の所在が判明(筥名はなく、江戸の藩学の蔵書印「弘道館／図書印」も押されている)。明倫堂目録不記載の図書として、書名に「■」を付し、あらたに行を立てた。

### 3-2. [16] ～ [22]

〈本論〉「5の1. 藩校蔵書（明倫堂蔵書）復元の試み」注3に、弘道館蔵書印本の扱いについて次のように記した。

「弘道館図書印」（江戸藩学の蔵書印）は、明倫堂印と合わせ捺されている例が多く、弘道館単独のものもA1に準じて、本学「明倫堂文庫」の一員とする（狭義の明倫堂蔵書からは外すべきかもしれない）。

「弘道館」印を合わせ持つ図書は明倫堂目録に載らないもの（■書名）が多く、表紙に筥名は記されていないのが通常である。「墨子全書」のように番号0812（蔵書印：「明倫堂図書」のみ）には筥名「則」があり、0813（蔵書印：「明倫堂／書庫記」「弘道館／図書印」「育英堂／図書記」）には筥名が無い。後者は弘道館から明倫堂蔵書に加えられた図書と考えられる。

したがって、今回、下記[16]から[22]のように整理し直した。

なお、漢籍番号0522「大明会典」のように、「弘道館」に関わらないが筥名の無い図書が数点残る。これらについては筥名記載漏れの可能性もあり、表を改めなかった。

[16] 漢籍番号0290の康熙字典（筥名なし）を筥名「難」の図書に比定していたが、別書とすべきであり、前者を「■康熙字典」（■は明倫堂目録不記載書）とし、新たに行を立てた筥名「難」の図書を灰色表示（所在不明書）とした。

[17] 漢籍番号0649の「■近思録」筥名欄に「(なし)\*」追加。

[18] 漢籍番号0871の「■増続韻府〔→増続会通韻府群玉〕」筥名欄に「(なし)\*」追加。

[19] 漢籍番号0921の「■列子〔→列子虞齋口義〕」筥名欄に「(なし)\*」追加。

[20] 漢籍番号1071の「■増註唐賢三体詩法」筥名欄に「(なし)\*」追加。

[21] 漢籍番号1172の「古文後集〔→魁本大字諸儒箋解古文真宝後集二卷〕」を筥名「則」の図書に比定していたが、別書とすべきである。筥名「則」の「古文後集」は灰色表示とし、現存の1172の書名に■を冠し、別行を立てた。

[22] 和書番号0588の「雅語音声考 希雅」を筥名「樂」の図書に比定していたが、別書とすべきである。筥名「樂」の図書は灰色表示とし、現存の0588の書名に■を冠し、別行を立てた。